

# 世界の漁業の現状と資源状況について

## 1. 世界の漁業生産の動向

### (1) 漁獲及び養殖の生産量

世界の人口は、2024年に約82億人に達し、さらに2080年代には103億人を超えると予想されている(UN-DESA2024)。国際連合食糧農業機関(FAO)のフードバランスシートのデータによれば、水産物は、人類に供給される動物性タンパク質(1人1日当たり約38g)の約15%の約6gを担っている(FAO 2025a)。以下に述べるとおり、世界の水産物の需要の増大に伴い、漁業生産量は増大しているが、漁獲による生産量は近年横ばい傾向であり、需要の増大には養殖による生産量の増大が応えている状況にある。それでも、水産物供給に果たす海面漁業の役割は依然として大きく、漁獲対象資源を科学的根拠に基づき持続的に利用することは重要である。

世界の魚介類(海藻類、ほ乳類を除く)の漁獲と養殖を合わせた漁業生産量は、FAO(2025b、2025c)の統計によると、1950年以降ほぼ増加傾向を維持しており、2022年には、約186.7百万トンとなった。(図1)。漁獲による生産量(海面+内水面)は、2022年において約92.3百万トンであり、過去20年程度ほぼ横ばいで推移している。このうち内水面での漁獲量は、2022年は約12.6百万トンであり、2012年の約12.4百万トンから10年間で約2%増加している。養殖による生産量(海面+内水面)は、2022年において約94.4百万トンであり、2012年の約63.5百万トンから10年間で平均的には年約4.9%の割合で増加している。

FAO(2025b)の統計によると、世界の海面漁獲量は、1950年の約16.8百万トンからほぼ増加を続け、1976年には60百万トンを超え、1996年に約86.2百万トンでピークとなった(図1)。その後はやや減少～横ばい傾向が続き、2022年は約79.7百万トンであった。海域(FAOによる区分)別の2022年の漁獲量は、北西太平洋が18.6百万トンで最も多く、次いで中西部太平洋が13.8百万トン、南東太平洋の9.0百万トン、北東大西洋の8.2百万トン、東インド洋の6.1百万トンが続いている。

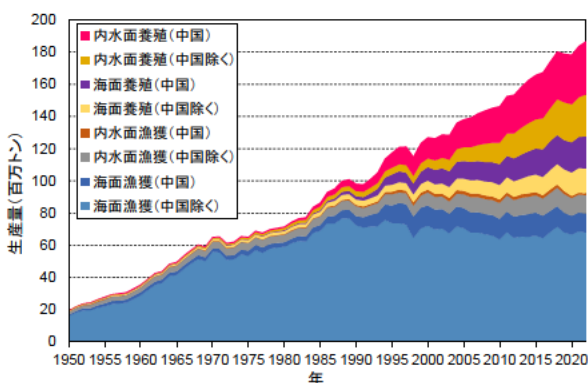


図1. 世界の漁業生産量の推移  
(海藻類、ほ乳類を除く、1950～2022年)  
(FAO 2025b、2025cに基づいて作成)

国別の2022年の海面漁獲量は、中国が11.8百万トンで最も多く、次いでインドネシアが6.8百万トンであり、ペルー(5.3百万トン)、ロシア(4.7百万トン)、米国(4.2百万トン)、インド(3.6百万トン)、ベトナム(3.4百万トン)が続いている。

魚種別の2020年の漁獲量は、FAO(2024)によると、南東太平洋のアンチョペータ *Engraulis ringens* が約4.9百万トンで最も多く、スケトウダラ *Gadus chalcogrammus* が約3.4百万トンで次に多かった。これにカツオ *Katsuwonus pelamis* (約3.1百万トン)、タイセイヨウニシン *Clupea harengus* (約1.6百万トン)、キハダ *Thunnus albacares* (約1.6百万トン)が続いている。

なお、アンチョペータの漁獲量は、FAO(2025b)の統計によると1960年以降、94千トンから13.1百万トンに達する極めて大きな変動を示している。

### (2) 我が国周辺水域の漁獲動向

我が国90年代に急激に減少して、1996年以降は18.5万～1.1百。我が国周辺を含む北西太平洋における漁獲量は、FAO(2025b)の統計によると、1950年から増加を続け、1983年に19百万トンを超え、以降は変動しながら19百万～24百万トンの範囲で推移している(図2)。最近5年間は19百万～20百万トンの水準で変動しており、2022年は18.6百万トンであった。この漁獲のほとんどは、中国(約11.0百万トン)、ロシア(約3.5百万トン)、日本(約2.7百万トン)及び韓国(約0.9百万トン)による。

北西太平洋における主な魚介類の漁獲量の推移は、1970年代から1990年代にかけてはスケトウダラが、1980年代から1990年代初めにかけてはマイワシ *Sardinops sagax* が、それぞれ大量に漁獲され、1980年代後半にはそれぞれの魚種で5百万トンを超える漁獲量が記録された(図3)。その後、スケトウダラでは2000年代に1百万トン台に減少して以降は1.1百万～2.1百万トンの範囲で推移し、2022年は約2.1百万トンであった。マイワシでは1990年代に急激に減少して、1996年

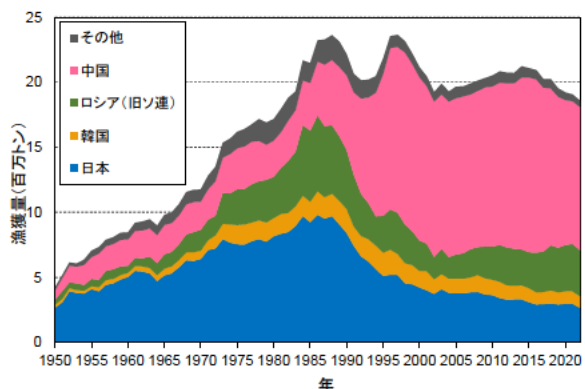


図2. 北西太平洋における国別漁獲の動向  
(海藻類、ほ乳類を除く、1950～2022年)  
(FAO 2025bに基づいて作成)

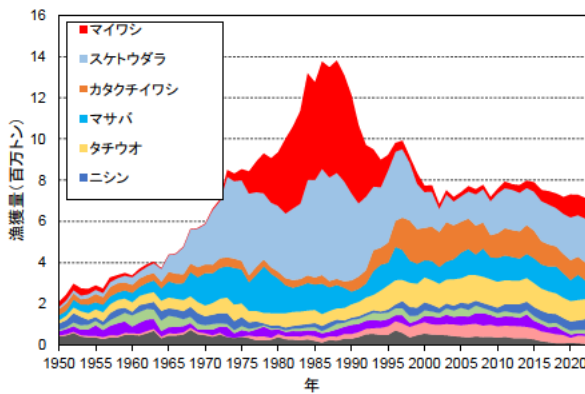


図3. 北西太平洋における主要資源の漁獲動向  
(1950～2022年)  
(FAO 2025b に基づいて作成)

以降は18.5万～1.1百万トンの範囲で推移し、2022年は約1.0百万トンであった。マサバ *Scomber japonicus* では、1970年代は約1.4百万～約2.2百万トンと多く漁獲されたが、1990年代初めに60万トン台に減少した。その後2000年代後半以降は概ね1百万トン以上で推移し、2022年は約0.9百万トンであった。

## 2. 漁業資源の漁獲状況

FAO(2024)によれば、1974年以降の評価において、生物学的に持続可能でない過剰に漁獲利用された状態にある資源(海域別魚種)の割合は1974年には10%であったが、2021年には37.7%まで増加した(図4)。一方、漁獲を拡大する余地のある資源を含めた持続的に利用可能な状態にある資源は1974年の90%から、2021年には62.3%まで減少している。世界の漁獲量の上位10魚種については、2021年において、78.9%の資源が生物学的に持続可能な状態にあったが、マサバ *Scomber japonicus*、マイワシ *Sardinops sagax* 及びタイセイヨウニシン *Clupea harengus* については、過剰に漁獲利用された状態にある系群の割合が平均よりも高かったとされている。また、マグロ・カツオ類の主要7種(ビンナガ *Thunnus alalunga*、メバチ *T. obesus*、大西洋クロマグロ *T. thynnus*、ミナミマグロ *T. maccoyii*、クロマグロ *T. orientalis*、カツオ及びキハダ)については、2021年に約5.0百万トン漁獲されており、2019年から10%減少している。マグロ・カツオ類のうち87%の資源が生物学的に持続可能なレベルで漁獲利用された状態にある。

過剰に漁獲利用された状態にある、あるいは漁獲を拡大する余地のない資源については、適切な資源管理措置により、資源の回復あるいは維持を図る必要がある。漁獲を拡大する余地のある資源についても、科学的根拠に基づく的確な資源評価・管理が必要である。現在、各国の科学者が漁業者の協力を得ながら資源状態の解析に尽力し、世界の各水域の資源評価・管理において重要な役割を果たしているが、評価に用いる指標や、生

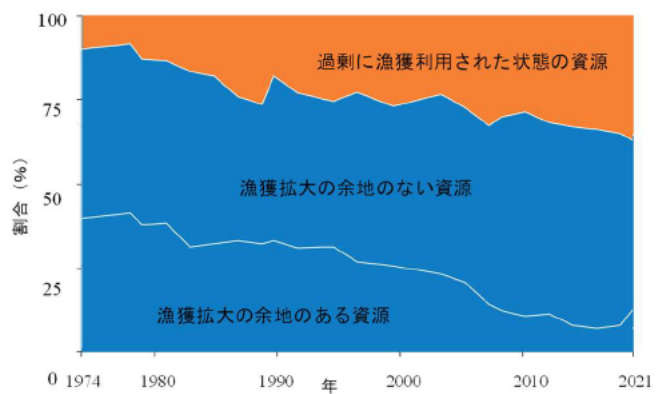


図4. 1974～2019年における世界の海洋水産資源の漁獲利用状態別割合の推移 (FAO 2024のFigure18を改変)  
黄色は生物学的に持続可能ではない漁獲状態、  
水色は生物学的に持続可能な漁獲状態にある

物学的な知見が乏しい資源も多い。我が国は、責任ある漁業国、消費国として、資源状態及び変動要因の把握に努めるとともに、地域漁業管理機関において、従来にも増して積極的なリーダーシップを発揮し、科学的知見に基づく適切な資源管理措置の導入に貢献する必要がある。

## 執筆者

水産庁増殖推進部漁場資源課 水垣千晶

## 参考文献

FAO. 2024. PART 1 WORLD REVIEW. In FAO(ed.), The State of World Fisheries and Aquaculture 2024. Rome, Italy. 1-111 pp.  
FAO. 2025a. FAOSTAT, Food Balances(2010-).  
<http://www.fao.org/faostat/en/#data/FBS> (2025年3月26日)  
FAO. 2025b. Global capture production Quantity (1950-2022).  
[https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/capture/capture\\_quantity](https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/capture/capture_quantity) (2025年3月26日)  
FAO. 2025c. Global aquaculture production Quantity (1950-2022).  
[https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/aquaculture/aquaculture\\_quantity](https://www.fao.org/fishery/statistics-query/en/aquaculture/aquaculture_quantity) (2025年3月26日)  
UN-DESA (United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division). 2024. Chapter I. Awareness of population trends is critical for achieving a sustainable future. In United Nations, Department of Economic and Social Affairs, Population Division (ed.), World Population Prospects 2024: Summary of Results. New York. USA. 3 pp.  
[https://population.un.org/wpp/assets/Files/WPP2024\\_Summary-of-Results.pdf](https://population.un.org/wpp/assets/Files/WPP2024_Summary-of-Results.pdf)